

それでもぼくはここが好き。

～あなたはわが子に手をあげたことがありますか？

子どもの痛み 感じていますか？～

－「こころの貧困」が叫ばれています。－

急増して止まない児童虐待。子どもも大人もそれぞれがSOSを発し、心に迷いを抱えています。地域で育ち、見守られ、たくさんの愛情を受けながら心通う生活を営めないでしょうか？

子どもたちをまん中にした豊かな子育てができる環境、まちづくりについて考え、すべての人と手をつなぎ合いませんか？

開催日 2014年12月7日(日)

時間 12:30～16:30 受付12:00～

場所 東北学院大学 土樋キャンパス

参加費 無料

■ スライド放映 「くらやみにまけないで -虐待の記憶との闘い-」
(関西テレビ製作)

■ 基調講演 川松 亮 氏
(厚生労働省 雇用均等・児童家庭局 総務課 児童福祉専門官)
「虐待の背景にある子ども達の生活の現状や地域でできる支援のあり方」

■ トークセッション

パネリスト

川松 亮 氏 (厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課児童福祉専門官)

ト蔵 康行氏 (日本ファミリーホーム協議会会長 宮城県里親連合会なごみの会会長)

山屋 理恵氏 (一般社団法人 社会的包摂サポートセンター)

コーディネーター

青砥 恭 氏 (明治大学講師・NPO 法人さいたまユースサポートネット代表)

主催：特定非営利活動法人 ワーカーズコープ 東北事業本部 TEL 022(398)4975

共催：一般社団法人 社会連帯機構

後援：(準備中)厚生労働省・宮城県・仙台市・仙台市教育委員会・宮城県・

宮城県里親連合会なごみの会・特定非営利活動法人 みやぎ県子ども・おやこ劇場

2014年東北子育てフォーラム in 仙台は、一般社団法人社会連帯機構の助成を受けて開催いたします。

◆「くらやみにまけないで-虐待の記憶との闘い-」放映にあたって。

急増して止まらない児童虐待。岸和田のケースでは子どもを監禁、殺人未遂の事態に至って、警察が介入し、最終局面では命は救えたが警察庁によると今も3日に1人の子どもが親による虐待と推察される死を迎えているという。子どものSOSは見えにくく、警察や児童相談所もなかなか手が回らない。警察は立件の壁、児童相談所は親権の壁が立ちちはだかる。一方、虐待されて育った人たちはどんな幼少期や思春期を過ごし、その後どんなトラウマを抱えるのだろうか？

＜主人公一家とストーリー＞

大阪市内で暮らす母子家庭。母親文（あや）さんは33歳。中学2年の長男（14歳）、中学1年の次男（13歳）、小学2年の3男（8歳）で暮らしている。

母親文さんは、幼いころに虐待されて育てられた。その頃の記憶が今も残る。

番組前半は、主に文さんの成育歴や子どもの虐待の足跡。後遺症としての発作がおこるとどうなるのか？当事者の苦しみを提示。後半は、虐待で悩む友人たちとの交流や救出活動。特に性的虐待のあるケースと出会い、自身が性的虐待を受けていたことを思い出し、あらたな「くらやみ」との闘いが始まる。虐待されて育った次男も「くらやみ」との葛藤が始まった。

ナレーション 工藤夕貴

第14回FNSドキュメンタリー大賞ノミネート作品

※ドキュメンタリー大賞ホームページより



◆会場 東北学院大学アクセス

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1

地下鉄「五橋駅」から南1番出口を出て徒歩5分。※出口より案内人が出ております。

参加ご希望の方は、下記の必要事項にご記入の上、FAX またはメールでお申込みをお願いいたします。

FAX 送信先 022-398-4973

メールアドレス keyakinomori@roukyou.gr.jp

（宛先：特定非営利活動法人ワーカーズコープ 東北事業本部 宛）

参加申込書

平成26年12月7日（日）東北子育てフォーラム in 仙台 に参加します。

■お名前

■ご所属

■ご住所

■ご連絡先電話番号

ご記入いただいた情報は、東北子育てフォーラム in 仙台の利用目的以外には使用いたしません。